

## 神奈川県立小田原支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 小田原支援学校 第2回 学校運営協議会
開催日時	令和7年8月25日(月)10:00~12:00
開催場所	小田原支援学校 応接室
出席者	運営協議会委員(本校校長含む)8名※欠席者なし、リモート参加1名 事務局教職員13名
会議資料	第2回学校運営協議会次第、各部門・校舎・各グループⅠ学期の取組状況について、人的交流報告
議事録	<p>1 会長挨拶          猛暑の中での開催となり、コロナ禍と共に暑い気候になってきたことを感じている。前回、学校運営の重要性が再確認された。委員の皆様との質疑応答を通じて、声を出し合って、小田原支援学校をよりよくしていく話し合いにしていきたい。</p> <p>2 校長挨拶          第一回運営協議会では学校経営において「安全・安心・働きやすい学校づくり」を目指したいとお伝えした。「児童・生徒にとっての安心」のための取り組みの一つとして、防災部会で「スクールバス運行時の災害対応」を話題とし、一時避難支援体制の仕組み構築について検討いただいた。「保護者にとっての安心」を実現する取り組みの一つとして「適切で丁寧なかかわりのスタンダード」の作成を進めている。学校だけでなく地域や保護者と一緒に作り上げていきたい。「働く職員にとって働きやすい職場」について、夏休みに「働きやすい学校」についてのワークショップを行った。ポジティブな研修会となった。</p> <p>3 学校評価部会          &lt;Ⅰ学期の学校の様子について&gt;          ①小A:ICT、視覚支援をつかった児童が興味関心を持てる活動ができた。          ②小B:火災時の垂直避難を想定した避難訓練を複数回実施。複数実施したことでの児童、教員共に慣れることができた。          地球博物館への遠足では、食事の配慮が可能なレストランを選定し、刻み食やペースト食などの対応が行われた。          交換授業では、他クラスの教員が授業を担当することで、児童に新たな刺激を与え教員間の授業研究にもつながった。          ③中A:宿泊学習や校外学習を通じて、協力や社会体験を重視した活動を展開した。慣れることで、子どもたちの笑顔が増えた。          ④中B:オリジナルの紙芝居を使った授業を行い、生徒が大好きな時間となった。ICT活用による個別学習支援では、スケジュール確認や見通しを持った生活支援が行われた。歯科指導では、苦手意識のある生徒もいるが、子どもの「できた」につながり、生徒、教職員共に学びになった。          ⑤高A:地域交流として、鈴廣や自衛隊と連携し、作業体験を行った。          ⑥高B:ロングホームルームを活用し、学部内の交流や協力活動を促進した。生徒同士のお互いの理解につながった。          ⑦大井分教室:農政課と連携し、ジャンボタニシの駆除活動を行った。日々の活動を活かすことができた。来年度は、6月から定期的に駆除活動を行う予定。体力づくりで行ったランニングもそれぞれの目標に向けて行うことができた。          ⑧湯河原校舎:小田原駅を利用した学習や海岸での自然学習、沖縄修学旅行など、実生活に即した体験学習が豊富に行われた。学校アセスメントを通じて、今後の指導方針を検討できた。自衛隊と連携した防災出前学習も予定している。          ⑨全体の取り組みとして          ・教育課程検討会のグループを立ち上げ、下校時間や教育課程変更の可能性について検討を始めている。・ICT機器の利活用について、短時間で有意義な研修やオンライン研修会(配信コンテンツ)を実施し、職員のやってみたいが膨らむ時間を作ることができた。          ・「適切でていねいなかかわりのスタンダード」作成に向け、各学部等で意見交換を始めている。          ・全職員を対象に「私の理想の働き方」と題しワークショップを行った。それぞれが達成感や幸福感を持って働けるように、ウェルビーイングの視点から、どのようにすれば自身の心の余裕を生むことができるのか、理想的時間の使い方を考え夢を語ってもらつた。その夢を実現するため、あと30分自分の時間を生み出すためのアイデアを出し合い、グループ協議・全体共有を行つた。すぐに実行できること、検討が必要なことをどのように話し合っていくのか、職員会議で周知していく。</p> <p>&lt;意見交換・感想等&gt;</p> <p>○委員:わかりやすい説明で、学校の様子が伝わった。年間目標に対する現時点での実施状況が伝わった。Ⅰ学期の段階で一度整理しているところがよい。</p> <p>○委員:暑さに対する制限や対応についてどのようにしているか。</p> <p>○学校:WBGT計測器を用いて暑さ指数を計測し、活動の確認をしている。朝と昼に確認を行っている。室内でも暑い状況なので、体調面に配慮している。肢体不自由教育部門では、エアコンを調整しながら、一人ひとりに合わせた工夫を行っている。知的教育部門の校外歩行は、9月中は行わず、10月より再開する予定。</p> <p>それぞれの対応も大切であるが、予定が変わることで混乱する児童生徒がいる。見通しを持たせた活動で混乱を防ぐようしている。</p> <p>○委員:タニシ駆除の活動や地域交流の活動を通じて、支援学校について知つてもらうことが防災などの場面につながっていくのではないか。</p> <p>○委員:学校の近くに住んでいれば支援学校があることはわかるが、少し離れていると知られていない。どのようにアピールしていくか考えていけるとよい。回観やチラシ等があれば、地域で配ることができる。働き方改革の面では、学校の体育館などを使用</p>

した地域活動等は、どうしても学校が休みの土日になってしまふか、土日は警察などから協力が難しいと言われることもある。  
○学校：支援学校について知つてもらう工夫としては、作品展の実施、市町村の学校主催の作品展に参加する、居住地交流、障がい者文化事業、本校インスタグラムでの発信、絵本と歌での交流（別紙資料③参照）  
○委員：活動について分かりやすく知ることができた。「働きやすい学校」の掲示から先生達の思いを知ることができた。他の保護者にも知つてもらいたい。もっと学校のことを発信して広く保護者に知つてもらう機会があるとよい。

<人的交流について報告>

#### 4 部会開催

##### ◆切れ目ない支援部会

- ・「適切で丁寧なかかわりのスタンダード」の作成について、運営協議会での意見ももらいながら作成していく。障害特性だけでなく、個々の生活や好きなことに着目する支援の重要性が議論された。
- ・卒業のタイミングだけでなく、早期から支援者で連携し準備する必要性がある。早い段階での支援者の連携体制の構築が求められる。
- ・保護者の立場からは、卒後が思い描きにくい。早い段階から支援者を増やして、社会に出てからの生活の見通しが持てるといい。

##### ◆防災部会

- ・取り組みについて共有（避難訓練、防災研修、食糧備蓄、防災学習の様子など）
- ・スクールバス災害対応の検討が進行中であり、本日の施設町会にて本校のスクールバス発災時について話題にしてもらうことになっている。
- ・事業所の共同訓練に支援学校も参加する案がでた。
- ・湯河原校舎では、地域施設との連携による避難訓練の実施予定がある。
- ・小田原支援学校付近の避難場所が、エレベーターのある施設に変更されている。

#### 5、まとめ

<会長より>充実した時間になった。働き方について、一人ひとり色々ある中で、一度みんなが集まって話し合う場を持つことが大切。今日の話し合いを足掛かりに、学校教育活動を進め、次回みんなで話し合えるとよい。

<校長より>本校でやりたいことが見えてきた。「適切で丁寧なかかわりのスタンダード」については、学校だけでなく、家庭、地域、卒後のニーズなどを明らかにしながら作っていきたい。部会では、新しい視点からのアドバイスをもらうことができた。協議会委員の方からの後押しをいただき、学校として勇気をもって進んでいきたい。「働き方」についても、すべては難しいが、職員から集まつた意見の本音の部分の一部でも“実現するんだ”を感じてもらえるようにしていきたい。